

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

アカハライモリ

【英名】 Japanese fire-bellied newt

【学名】 *Cynops pyrrhogaster*

アカハライモリは水田やため池、小川などの水辺と、その周辺の陸地を利用して生活しています。ひと昔前は水辺でよく見かける生き物でしたが生息地の悪化や開発により減少し、都心部では絶滅が心配されています。水槽のアカハライモリを観察すると、お腹側は赤と黒の模様が目立ちます。これは、身を守るために毒をもっていることをアピールしていると考えられています。

水族園では都立の動物園と共同で、飼育下繁殖や生息地での保全活動をおこなっています。生息地では生活場所となる水辺の整備や、生息個体数のカウントをおこなっています。また、お腹の模様が個体ごとに異なることを利用し、生息地におけるイモリの寿命や行動範囲なども調べています。（飼育展示係 橋本 浩史）

CONTENTS

「水辺の自然」 エリア大特集

- 水族園の水辺は見どころがいっぱい！
- 「水辺の自然」展示ができるまで

なぎさ NEWS

- 夜の「西なぎさ」に行ってみた
- なぎさで探そう！こんな生き物「マメコブシガニ」

水族園のもう一つの顔

- 施設係のもうひとつの顔 樹木等の管理
- 「水辺の自然」に集まる生き物たち

TSLP LATEST



Vol.21 No.3 2023

JUNE

通巻

110

「水辺の自然」エリア大特集① 水族園の水辺は見どころがいっぱい!

昔、私たちの周りには、小川や田んぼ、池など、さまざまな水辺がありました。水の中をのぞくと青々とした水草の間に魚やエビ、水生昆虫が見られ、周囲の草むらからカエルやヘビが顔を出す。「水辺の自然」エリアは、そんな身近にあった東京近郊の水辺や川を再現した展示です。今回は、「水辺の自然」エリアの大特集！展示の見どころや魅力を、ギュッとまるごとお届けします。（教育普及係 高濱 由美子 / 宮崎 寧子）

01 水槽番号 51 | 流れ

川の中流域を再現した屋外の展示です。川沿いを歩きながら、四季折々の景色や水辺の植物が楽しめます。ニホンカナヘビなどの野生動物にばったり出会うことも。



02 水槽番号 54 | 田んぼ



お米を作るための人工的な湿地です。5月に植えたイネが順調に育っています。水の中では、今年生まれのミナミメダカが見られるようになりました。そっとのぞいてみましょう。

淡水生物館

04 水槽番号 52 | 池沼



シュレーゲルアオガエル



ニホンシガメ

大きな池の景観を水中と陸上の両方から楽しむことができます。また、隣接する小水槽では、カエルのなまやアカハライモリなどの両生類を中心に、かつては身近だった水辺の生き物を展示しています。

05 水槽番号 53 | ため池



ゼニタナゴ

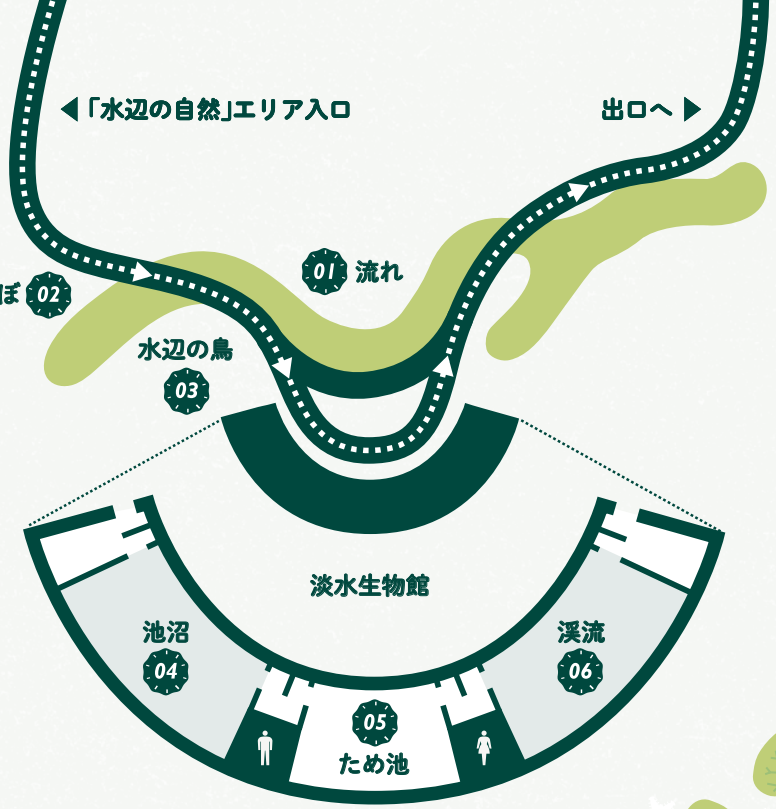
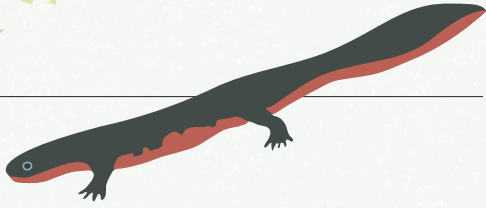
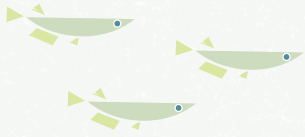
ため池は、田んぼや畑などに使うための水を貯めておく人工の池です。東京では姿を消してしまったゼニタナゴなどを展示しています。



ヒシ

入り口をお見逃しなく!





03 水槽番号 56 | 水辺の鳥

主に干潟や田んぼなどで見られるクロツラヘラサギを展示しています。もし水辺でエサを探していたらチャンス！へらのような形のクチバシでどのようにエサを食べるのか、観察してみましょう。



06 水槽番号 55 | 溪流



川の上流域を再現した水槽です。溪流にすむ代表的な魚、ニッコウイワナやヤマメを展示しています。水しぶきのかかる湿った場所を好むユキノシタやワサビなどの植物も、見どころのひとつです。



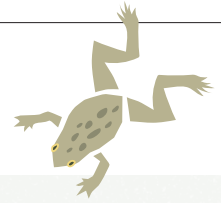
check! 見頃を迎える植物

「流れ」の川沿いでは、さまざまな水辺の植物を楽しむことができます。初夏から夏にかけて見頃をむかえる植物をご紹介します。ラベルを目印に探してみてください。



「水辺の自然」エリア大特集② 「水辺の自然」展示ができるまで

葛西臨海水族園は、平成元年に葛西臨海公園内の東京湾に面した場所に建設されました。「水辺の自然」エリアは、本館から少しはなれた屋外の、都内の河川や池沼の環境を再現した展示です。ここでは、開園から現在までの「水辺の自然」の展示をふり返ってみましょう。



流れ

全長 200m ほどの人工河川で、水量は 630t あります。通常の展示水槽のような過はしておらず、下流から水をポンプで上流までくみ上げています。開園当初は、樹木はほとんどなく、芝生の地面が広がるゴルフ場のような景観でした。



1989

周囲に落葉樹を植栽して日陰を作り、秋から春の時期に葉が落ちて岸辺に光が差しこむようにしました。岸に土や砂を盛り、水辺に生える野草を植えました。当初は、日陰を好む野草は夏の暑さで育つことができませんでしたが、今ではクサソテツやオオバギボウシといった水辺の植物が繁茂しています。



2023

困った事に、開園して数年後には、アメリカザリガニやウシガエルといった外来種が周囲から侵入してきました。特にアメリカザリガニは、クロモやセキショウモなどの育てている水草や水生昆虫を食べてしまうため、現在でも増やさないための努力が続けられています。

池沼

水量 320t のモルタルで固められた池で、開園当初は、「流れ」と同様に、池の周囲に芝生と少しの樹木が植えてあるだけの、さびしい展示でスタートしました。

池の底の砂は、機械で入れることができずに素手で入れたのですが、広い展示なので、大量の砂を運ぶのにかなりの時間がかかりました。今では、春から秋にかけて、ハンゲショウやマコモなどの抽水植物やアサザやヒメコウホネなどの花を楽しむことができます。



1989



2023

溪流

長さ 50m、水量 70t の人工河川です。コンクリート製の岩で周囲を固め、溪流の環境を再現しています。開園して数年後に冷却器を設置し、ヤマメやニッコウイワナといった冷水性魚類が展示できるようになりました。乾燥

対策として周囲にモミジを中心とした落葉樹を植えて木陰を作るとともに、岩のすき間に土を詰めて野草を植える場所を作りました。霧を発生する装置をつけることで湿度の高い環境を維持できるようになり、ウワバミソウやイワタバコなどの溪流に生える野草やコケが育つようになりました。



1989



2023

開園から 30 年以上経過し、「水辺の自然」エリアは、多くの植物がエリアを包み込むように茂り、一体化してひとつの展示のようになっています。

季節の移り変わりにより芽生え、花が咲き成長していく、変化に富んだ独特の展示へと熟成しました。

(飼育展示係 中村 浩司)

なぎさ NEWS



夜の「西なぎさ」に行ってみた

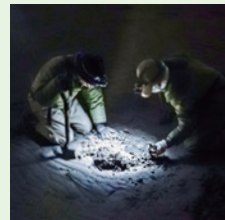
2023年1月のとても寒い夜。いつもは日中におこなっている「西なぎさ」での底生生物調査を実施しました。「西なぎさ」での調査は、潮が引いて砂地や泥地がでてきたタイミングで行います。そのため計画を立てるときには、潮の満ち引きの大きさや時間を予測した潮位表を確認し、潮位の変化が大きい時期（大潮）の最も潮が引く時間（最干潮）を調べます。最干潮の時間帯は、潮干狩りをイメージすると日中にあると思うかもしれませんが、ところが、この時間帯は季節によって違います。「西なぎさ」のある太平洋側では、冬の最干潮は夜間にあり、日中は潮がほとんど引かないのです。そこで、今回初めて夜間調査を試みました。

夜の「西なぎさ」は想像していたよりも暗く、少し怖さを感じるほどでした。ヘッドライトで手元を照らしながら砂や泥を掘っていくと、ヤマトジジミやニホンスナモグリなどが見つかりました。暗闇の「西なぎさ」で生き物を探すという経験は、調査報告としてまとめるだけでなく、教育プログラムでもいかしていきたいと思います。

(教育普及係 田中 隼人)



暗闇の干潟で生き物を探す



手元を照らして穴を掘ると、ニホンスナモグリが!

なぎさで探そう! こんな生き物

見つけやすさ ★★☆☆☆

サイズ 甲幅 1.5-2cm

見つけるコツ

あまり深い場所にはいなくて、浅い場所を好むようだ。潮が引いた後にできる水たまりや、波打ち際を見てみよう。マメコブシガニが歩いているかもしれないよ。砂とよく似た体の色をしているうえに、砂の中に潜って頭だけを出していることもあるから、注意深く探してみよう。

マメコブシガニ (コブシガニ科)

■マメコブシガニはこんな生き物

干潟のしおだまりや波打ち際で見られる小型のカニだよ。甲羅は丸くて、茶色や灰色が混ざった複雑な模様をしているんだ。

メスよりもオスのほうが大きなハサミをしていて、繁殖のときにはオスがメスをしっかり抱える様子が見られるよ。

カニといえば横歩きをするイメージがあるけど、マメコブシガニは前や後にも歩くことができるんだ。でも歩くスピードは遅いから、簡単に捕まえることができるよ。捕まえたら手の上に乗せてごらん。足をたたんでじっと動かなくなるよ。死んだふりをしているのかな。(教育普及係 小川 悠介)



波打ち際で見つけた!



水族園 のもう一つの顔

施設係のもうひとつの顔 樹木等の管理

施設係の仕事は、主に建物や設備のメンテナンスですが、樹木等の維持管理もおこなっています。開園当時、園内には45種以上3500本以上の樹木が植えられましたが、30年以上経過した現在、それらの木々は成長し、また風や鳥に運ばれてきた種が成長したものを含めると、その数もボリュームも増えています。こうした樹木のほか芝生や花壇などを、特性や季節に応じて管理しています。例えば、屋外のギフトショップ「アクアスケープ」入口脇の植物はマテバシイ。常緑高木で春に新芽を出す葉は徐々に大きくなり、夏は日陰になりますが放っておくと繁りすぎるので、毎年冬に剪定をしています。また、「水辺の自然」エリア出口付近の右側に点在するのは、葉の裏が銀色のナワシログミ。ツル状の常緑樹で小枝が棘になっており、剪定するのも剪定した枝を処分するのも注意が必要です。春先に、大きくなり過ぎて高木に絡んだナワシログミを剪定したので、出口付近は以前に比べて明るくなりました。季節によって移り変わる水族園の植物が、水族園にいらっしゃる方の楽しみのひとつになればいいと思います。

(施設係 山田 優子)



ナワシログミはこのあたり。葉の裏の銀色や枝の棘が目印

「水辺の自然」に集まる生き物たち

水族園の屋外展示「水辺の自然」エリアは1989年の開園時からあるエリアです。埋め立て地で何もなかった場所にイチから整備された「作られた自然」も30年以上経った現在では、見た目も「かなり自然」になってきています。このエリアには展示のために導入した生き物以外にも、いつの間にかすみついた昆虫や植物などが見つかるようになりました。そこで今年の3月から、ここで見られるさまざまな生き物について、水族園職員が手分けして調査を行うことになりました。まだ調査は始まったばかりですが、私が担当している鳥類のことについて少し紹介します。春の調査では、カルガモやキジバト、コサギやコゲラ、ヒヨドリなど、いわゆる都市公園などでよく見られる鳥が確認できました。3月29日には巣の材料にするコケを何度も運んでいるシジュウカラが見られたので、このエリアで繁殖のための巣を作ったようです。

「水辺の自然」エリアには、2021年の9月に野生のニホンコウトリが飛来しました。水族園が「整備してきた自然」も、野生の生き物たちにだんだんと認められてきたのかもしれない。

(飼育展示係 三森 亮介)



巣の材料となるコケを運ぶシジュウカラ

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 3/24 「グレートバリアリーフ」水槽でスパイニークロミスがふ化
- 4/12 「大洋の航海者 マグロ」水槽にマイワシ5000尾を搬入
- 4/13 「しおだまり」水槽でウツボを展示
- 4/16 飼育の日スペシャルガイドツアーを実施
- 4/22-25 世界ペンギンの日特別ガイドを実施
- 4/26 「田んぼ」水槽で田植えを実施
- 4/29 「北極2」水槽でアトランティックスパイニランプサッカーを展示
- 5/10 「海藻の林」水槽でワカメを試験展示
- 5/17 ツチガエルのラベル表示を ムカシツチガエルに変更
- 5/18 「深海の生物 トピック水槽」でメンダコをモニター展示
- 5/21 「北太平洋」水槽でカガミダイを展示
- 5/28 「大洋の航海者 マグロ」水槽にクロマグロ30尾を搬入

編集後記

水族園職員の中にも密かなファンが多いのが、この「水辺の自然」エリアです。何を隠そうこの私もそのひとり。これからの時期は、いろいろな水辺の植物が花を咲かせる一年で最も色鮮やかな季節です。淡水生物館で、さまざまな環境の淡水魚やカエルのなかまなどを観察しながら、東京の水辺環境について学ぶのもオススメです。ぜひ足を運んでみてください。(高濱)



TOKYO
SEA LIFE
PARK

SEA LIFE NEWS 通巻 110

Vol.21 No.3 2023 JUNE 6月1日発行 (次号は2023年8月発行予定)

編集 東京都葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

